

2023/7

No. 35



医療法人 成精会

刈谷病院

Harmo-net

ハエモネット

4回目の病院機能評価 にあたって

このたび当院では、4回目となる病院機能評価の更新受審をむかえました。この15年あまりの経過を振り返りたいと思います。

病院機能評価は、病院の組織全体の運営管理や提供される医療について、日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から評価を行い、その評価を通じて病院の質改善活動を支援する取り組みです。その評価項目、評価方法は、医療を取り巻く環境の変化を踏まえて、概ね5年毎に改定が行われており、そのたびに、要求水準の引き上げも行われています。ちなみに、令和5年4月時点で、全国の認定病院数は2,008、精神科病院は173病院あります(4/7付評価機構プレスリリースより)。全病院数に対する認定病院の割合は約25%、精神科病院は同16%であります。

初回受審は、平成19年3月でありました。その半年前には、予備審査的な受診支援を受けています。この当時は、「バージョン5」と呼ばれる審査体制で、病院機能評価の歴史の中でも最も審査が緻密な時代であり、評価項目数は中項目/小項目で162/532におよびました。部門ごとに業務マニュアル等を作成し、評価項目別のファイルを整理し審査に臨んだ様子がかがええます。記録を読み感じたことは、PDCAサイクルが生み出すものは何かということや、浮き彫りとなった課題をどのように解決あるいは改善していけばよいかを大いに考える機会になったようであります。初回審査では、数項目の改善要望事項等が示されたため、しばらくの改善定着期間ののち、翌平成20年7月に認定に至りました。一方で、「あったかハートまつり」の開催は、この頃から、精神保健福祉の普及啓発に多大に寄与する取り組みとして高く評価したい、と総括されています。

2回目の更新受審は、改築特例を受け、1年遅れの平成26年5月でありました。この間にA棟の改築、精神科救急入院料への移行等があり、病院の様相は一転しました。準備を進める委員会メンバーも入れ替わり、この審査から私も関与することとなりました。

審査体制は「第三世代バージョン1.0」に置き換わり、病院の特性に応じた機能種別ごと(一般病院、リハビリ病院、精神科病院等)に整理され、精神科病院の評価項目は92項目に圧縮されました。さらに、評価内容の重点化とプロセス重視の観点から、症例の入院から退院までの経過を確認する、ケアプロセス調査がすべての機能種別で実施されるようになりました。

院内の準備では、マニュアル作りにこだわった前回審査から一転し、マニュアルは既にあるものとし、実態を確認する審

査という意識の切替えから入りました。役職者の交代もあつたため、この審査においても訪問受審支援を実施し、弱い部分の補強を行ったのち、本審査に臨んでいます。改善要望事項(C評価)はありませんでした。

3回目の更新受審は平成30年6月でありました。改築特例により、認定期間が4年に短縮されました。前回の反省点も踏まえ、準備委員会の機能を充実させ、自己評価調査票は念入りに点検し、自院のスタッフでリハーサルを実施しました。特にケアプロセス調査の当該病棟の関係者、各部署の担当者には大変な負担でありましたが、それ相応の評価としてフィードバックされています。

このたび4回目の更新受審にあたっては、若手の育成がひとつのテーマとなっています。院内の各部門が、担当する評価項目の「評価の視点」「評価のポイント」を確認・点検すること自体が、病院における質改善の動機づけになっていると思います。また、この先更新から3年目にあたる年には、「期中の確認」が行われますので、PDCAサイクルがうまく機能するとより良い病院になると思います。



事務部長

黒田 隆雄

ゆたかな心、こまやかな関わり、最新の医療

法人の理念

- ① すべての人に差別のない目、ゆとりのある態度で接すること
- ② 他者の立場にたった思いやりのある態度で接すること
- ③ 従来の自分たちの技能や実践に満足せず、常に検証と改善を心がけ、時代の要請に応えていくこと

法人の基本方針

- ① 丁寧な説明と意思決定のもとに医療と福祉を実践します
- ② 安心、安全な医療福祉環境作り積極的に取り組みます
- ③ 精神科救急を軸にした地域医療に積極的に取り組みます
- ④ 精神科リハビリテーションに積極的に取り組みます
- ⑤ 障害者の地域生活支援に積極的に取り組みます
- ⑥ 地域の医療機関、行政、福祉施設をはじめ、すべての社会資源との連携に積極的に取り組みます
- ⑦ 精神保健医療福祉についての啓発活動に積極的に取り組みます
- ⑧ 職員の研修と研鑽に積極的に取り組みます
- ⑨ 職員の健康維持と健康増進に積極的に取り組みます

刈谷病院 委員会特集

《倫理委員会について》

医療法人成精会では、刈谷病院・訪問看護ステーションH.E.J.・刈谷市障害者支援センターの各スタッフが集まり、月に1度、倫理委員会を開催しています。



主な活動としては

- 研究倫理申請の審査
- 法人職員に向けた研修等の準備：職員の倫理に関する理解を深め、日ごろの業務のなかでも倫理的課題をキャッチできるように、倫理に関する感性を高める研修など
- 倫理にかかわる必要な情報をキャッチし、病院としてどう取り組むか検討すること
- 病棟や外来、リハビリ部門など、各臨床の現場で起きている倫理的課題を話し合うことなどとなります

医療機関における「倫理」と聞くと、ちょっと小難しい、堅苦しい、よく分からない、などのイメージがあるかもしれません。しかし、私たち職員が患者さん、家族と接するいろいろな場面で、実はこの「倫理」にかかわることはあちこちに転がっています。

- 皆さんは患者さんの個人情報がかちゃんと守られ、主治医やスタッフに安心感を持ちながら病院に通えているでしょうか？（個人情報保護）
- 薬や治療、制度について、また入院の時など、通り一遍ではなく、患者さんご家族がかちゃんと理解ができる言葉、方法で説明がされ、納得していただけているでしょうか？（説明と同意・インフォームドコンセント、待遇など）

これらにとどまらず、患者さん、家族にスタッフがかかわるうえで、倫理は常に身近なものとして存在します。

またこの数年、全国のいくつかの精神科病院において入院患者さんに対する虐待問題が報道されています。NHK特集などでも取り上げられており、ご覧になった方も多いでしょう。これまでも、通院患者さんが虐待されているのを発見した場合には病院から行政などの窓口へ通報する取り組みはありました。

しかし、今回あらためて病院の中、まさに私たち病院職員が患者さんへの処遇・かわりが不適切なものではないか、問われることとなります。法律（精神保健福祉法）でも令和6年4月から明記されることになっています。

ただしこれは、私たち病院職員が「虐待はしない。虐待はだめだ」とスローガンをかければよいものではありません。先に述べた「倫理とは」と同じく、日ごろから「私たちの対応・かわり」を振り返り、そこに問題はないか、課題はないか、と気づき、スタッフ間で話ができる。そんな風土があつてこそ、またその積み重ねで虐待になりかねない状況に気づき、そこにどう向き合うか、また改善できるか考える、ことにつながります。

そんな刈谷病院の土壌をつくることを目指して、倫理委員会は活動を続けます。

（文責 地域連携室 高木 紀子）

知っておきたい精神科基礎知識

【「にも包括」ってなに？】



皆さんは、「にも包括」という言葉をご存知ですか。最近、精神科医療や障害福祉の分野でよく耳にするようになってきました。「にも包括」とは「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を略した言葉です。

平成16年9月に国は「精神保健医療福祉の改革ビジョン」を打ち出し、我が国の精神科医療を「入院医療中心から地域生活中心」に変えていく考えをはっきり示し、さまざまな施策がおこなわれてきました。

精神疾患の患者さんの総数は外来を中心に年々増加しています。国が特に力を入れて計画的に対策に取り組む疾患に癌、脳卒中、心筋梗塞等の心疾患、糖尿病の4疾患がありました。平成25年に精神疾患が追加され5疾病となりました。精神疾患は、傷病別の患者数をみると脳血管疾患や糖尿病を上回るまでになっており我々にとって身近な疾患になっています。

こうした中、平成29年2月に、「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」報告書で、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加(就労)、地域の助け合い、教育が包括的に確保された「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を目指す考えが新たに示されました。医療には我々精神科病院やクリニック、もちろん身体科の病院やクリニックがあります。障害福

祉・介護にはさまざまな障害福祉サービス、介護サービスがあります。住まいには持ち家、借家、公営住宅以外にもグループホームやサービス付き高齢者向け住宅などがあります。社会参加には一般就労、障害者雇用、福祉的就労など働くことが思い浮かびますが、地域のボランティア活動や自治会活動に参加するなどさまざまな社会参加があります。イメージ図(厚生労働省ホームページより引用)はこのようになっています。

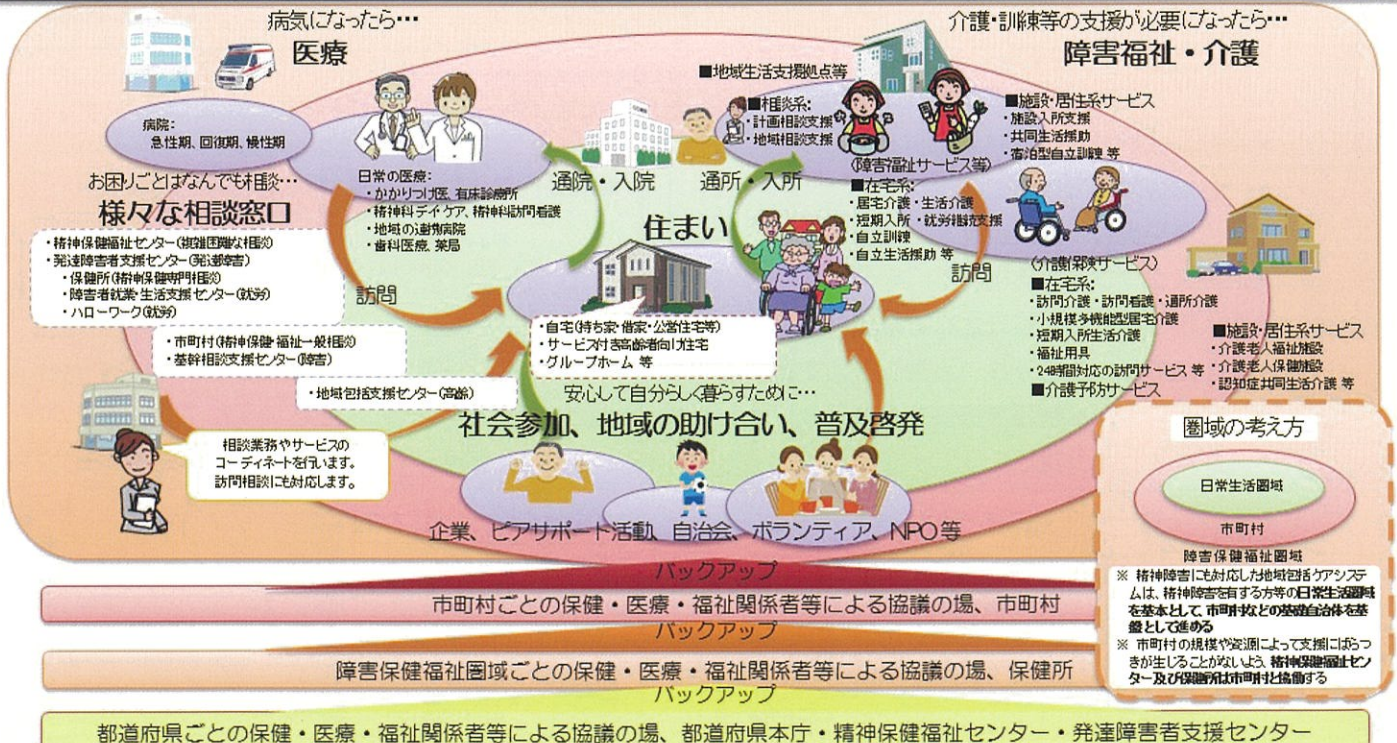
刈谷病院が主な診療エリアとしている碧海5市(碧南市・刈谷市・安城市・知立市・高浜市)は人口に比べて精神科病床数が非常に少ないエリアです。刈谷病院は精神科救急医療に力を入れ、患者さんが短期間の入院で住み慣れた地域に戻っていただくよう取り組んできました。また退院後は地域で安心して自分らしく暮らしていただくために地域の支援者と連携し支援していくことに力を入れてきました。国の精神保健医療福祉の方向性は刈谷病院が取り組んできたことと同じ方向を向いており後押ししてくれるものです。

まだまだ地域には課題が山積しておりますが、イメージ図にある医療や障害福祉の役割を法人全体で果たし、障害福祉・介護、住まい、社会参加(就労)、地域の助け合いを担うさまざまな団体や個人、行政と連携しながら、精神障害があっても患者さんやその家族が安心して自分らしく暮らすことができる地域づくりの一助となれるよう努めていきたいと考えています。

(文責 医師 垣田 泰宏)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築 (イメージ)

- 精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加(就労など)、地域の助け合い、普及啓発(教育など)が包括的に確保された精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指す必要があり、同システムは地域共生社会の実現に向かっていく上では欠かせないものである。
- このような精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築にあたっては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、市町村や障害福祉・介護事業者が、精神障害の有無や程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、市町村ごとの保健・医療・福祉関係者等による協議の場を通じて、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、当事者・ピアサポーター、家族、居住支援関係者などとの重層的な連携による支援体制を構築していくことが必要。



ミュージックフェスティバル

令和5年5月19日、雨の中ミュージックフェスティバルは開催された。コロナの流行によって、3年間中止を余儀なくされていたが、感染状況に合わせ、対策を講じた上で昨年から開催することができるようになった。そして今回、発表者はマスクを外し、制限のない状態で存分に発表することができた。企画から運営までデイケアメンバーとスタッフが協力して進めた。発表者はプログラム時間や休憩時間、家でも

熱心に練習していた。そして、家では見られない姿を見てもらおうと、ゲストに発表者の家族を招待した。発表や運営を終えたメンバーは達成感や安心感に溢れた表情をしていた。発表者や聞いていた人の中には、次の目標を語り、良い刺激になった方もいた。来年は、以前のミュージックフェスティバルのように、病棟の患者さんや他施設の方、デイケア以外のスタッフも参加できるようなイベントにしたい。



文責 デイ・ケア科 島田 慧人

材料 (2人分)

- 雑穀米……………1合
(もち麦や十六穀米など)
- 豚ミンチ……………180g
- しめじ……………1/2房
- ニラ……………4本
- ごま油……………小さじ1
- ★焼肉のたれ……………大さじ2
- ★オイスターソース……………大さじ1

～ビタミンB1で疲労回復と気持ちの安定を～

雑穀米のスタミナ丼

作り方

- ①雑穀米を炊く
- ②しめじは石づきをとり、ほぐす。ニラは1cm幅に切る。
- ③フライパンにごま油をひき、豚ミンチを炒める。
- ④ミンチの色が白っぽくなったら、しめじを入れ炒める。
- ⑤しめじがしんなりしたら、ニラ、★の調味料を入れて炒める。
- ⑥ニラがしんなりして、全体に味がいきわたったらできあがり。
- ⑦雑穀ごはんの上に出来上がった炒め物をのせて食べよう!



vol.34

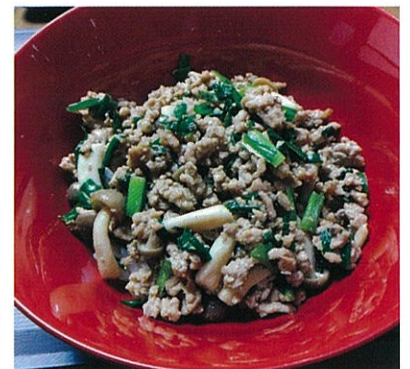
お手軽!!
レシピ

ワンポイント

ビタミンB1が不足すると糖質を分解できず、エネルギーが上手く作りだせなくなります。そのため、疲れがとれなくなります。また、脳の中枢神経へのエネルギー補給が十分にできず、脳の働きが鈍くなり、精神的に不安定になってイライラしたり、気力の減退や慢性的な眠気を感じたりします。ビタミンB1が豊富な雑穀米、豚肉・きのこ、ビタミンB1の吸収をよくする栄養素の「アリシン」を含むニラと一緒に食べて、身体も気持ちも元気にしていきましょう!



管理栄養士 大石 眞琴



患者さんの権利

- 人間としての尊厳が認められる権利
- 平等に医療を受けられる権利
- 十分な説明を受け、知る権利
- 医療を選択し、自己決定する権利
- 治療スタッフを知る権利
- 個人情報の秘密が厳守される権利
- 治療上のルールを守り、治療に参加する責任
- 治療上で必要な情報を提供する責任
- 医療費を支払う責任

患者さんの責任

編集後記

暑さも日々増していき、本格的な夏がやってきました。コロナも5類へ移行となり少しずつ過ごしやすくなってきました。今年こそは、楽しい思い出がいっぱいできますように。

広報委員 鈴木

暑い季節になり庭の雑草の元気がいい。雑草という植物はないというけれどやっぱり手入れはしないと見た目は良くないし防犯上も良くない。取っても取っても切りなくはえてくる。夏は雑草との根競べ。

広報委員 神谷

神経科・精神科
医療法人 成精会
編集・発行 / **刈谷病院**
〒448-0851 愛知県刈谷市神田町二丁目30番地
TEL (0566) 21-3511 FAX (0566) 21-3536
<http://www.kariya-hp.or.jp> 携帯HP / <http://www.kariya-hp.or.jp/i>



交通のご案内

- 車で
野田ICから車で10分
上重原ICから車で10分
無料駐車場 117台
- JR東海道線刈谷駅
南口より徒歩10分
- 名鉄三河線刈谷駅
南口より徒歩10分

